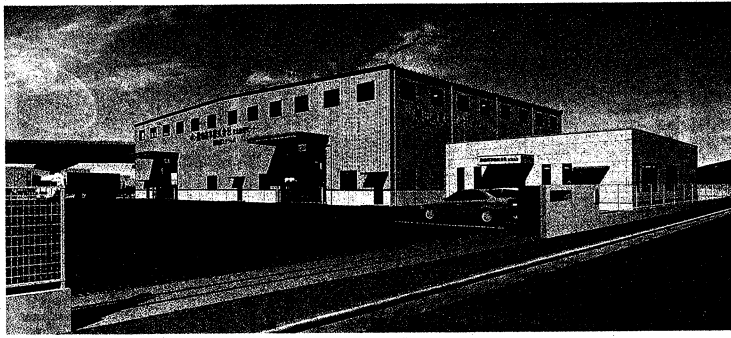


藤田商事

東北鉄鋼センター 来春完成

6億円投資 切断能力5割増



東北支店・東北鉄鋼センターイメージ図

特殊鋼流通の藤田商事(本社=千葉県浦安市、藤田忠義社長)は、東北支店(仙台市)を新築し、敷地内に従来

の1.5倍の広さの「東北鉄鋼センター」と事務所棟を建設す

る。東北支店は開設から31年が経過。建屋・設備が老朽化していることから、最新設備を導入し、省人・省エネ化を志向する近代的な鉄鋼センターとして生まれ変わる。来年3月に竣工予定。総投資額は約6億円。

藤田商事の新・東北鉄鋼センターは、敷地面積7933平方メートル、新築屋1859平方メートル。設計・施工はJFEシビルが担当する。すでに建設工事に着手しており、来年3月に竣工する予定。新築する土地はこれまで駐車場として貸与していた。

機械設備では、日本初導入となるKASTO社のシステム・超硬刃サーキュラーソー(最大径1500ミリ対応)、システムバンドン(同430ミリ対応)、切断残材保管用立体自動倉庫(最大保管117ト)をそれぞれ新設するほか、既存の定尺材クレードル立体保管システム、KASTO全自動バンドソー数台を移設し、短納期対応を強化する。切断能力は5割アップする。

藤田社長は東北の新しい拠点について「高品質と短納期を一層追求する」とした上で「内需が伸びない中で、生き残るには常に一步先を見据える」とし、機械加工力強化への投資は惜しまない考えを示した。

東北支店は直需向けが主体だが、中小口の需要も多い。競争が激化する中で、鋼材の切断加工納入に加え、短納期化と精度要求が高まっている。こうした要求に迅速に対応するため、従来の建物は、新築完成および移転後、解体する。



JFEブースイメージ

JFEグループ JFEスチールをはじめとするJFEグループ7社は、29日と30日に大阪市のマイドームおおさかで開催される「建設技術展・近畿」に共同出展する。東日本大震災や近時の天候異変による災害多発などで、防災ニーズが高まる中、グループの防災技術力・商品力をPRする。建設技術展・近畿への出展は初めて。

参加7社はJFEスチール、JFEエンジニアリング、JFE建材、JFEテクノシビル、JFEグループの8つの分野に分類、多彩な技術展示を行うことで、技術開発に向けた建設技術者の意識高揚、新技術の開発・普及につなげることを狙いとしている。昨年度は約160社が出展し、1万4000人余りの来場者を集めた。

リサーチ、JFE商事テールワンで、つばさ杭やハイリッド防潮堤、土石流捕捉工Jスリット堰堤、多目的津波避難タワーなど特色ある商品を出展する。建設技術展・近畿は、防災・環境・コスト削減・安全安心・施工・ITロボット・団体・学校